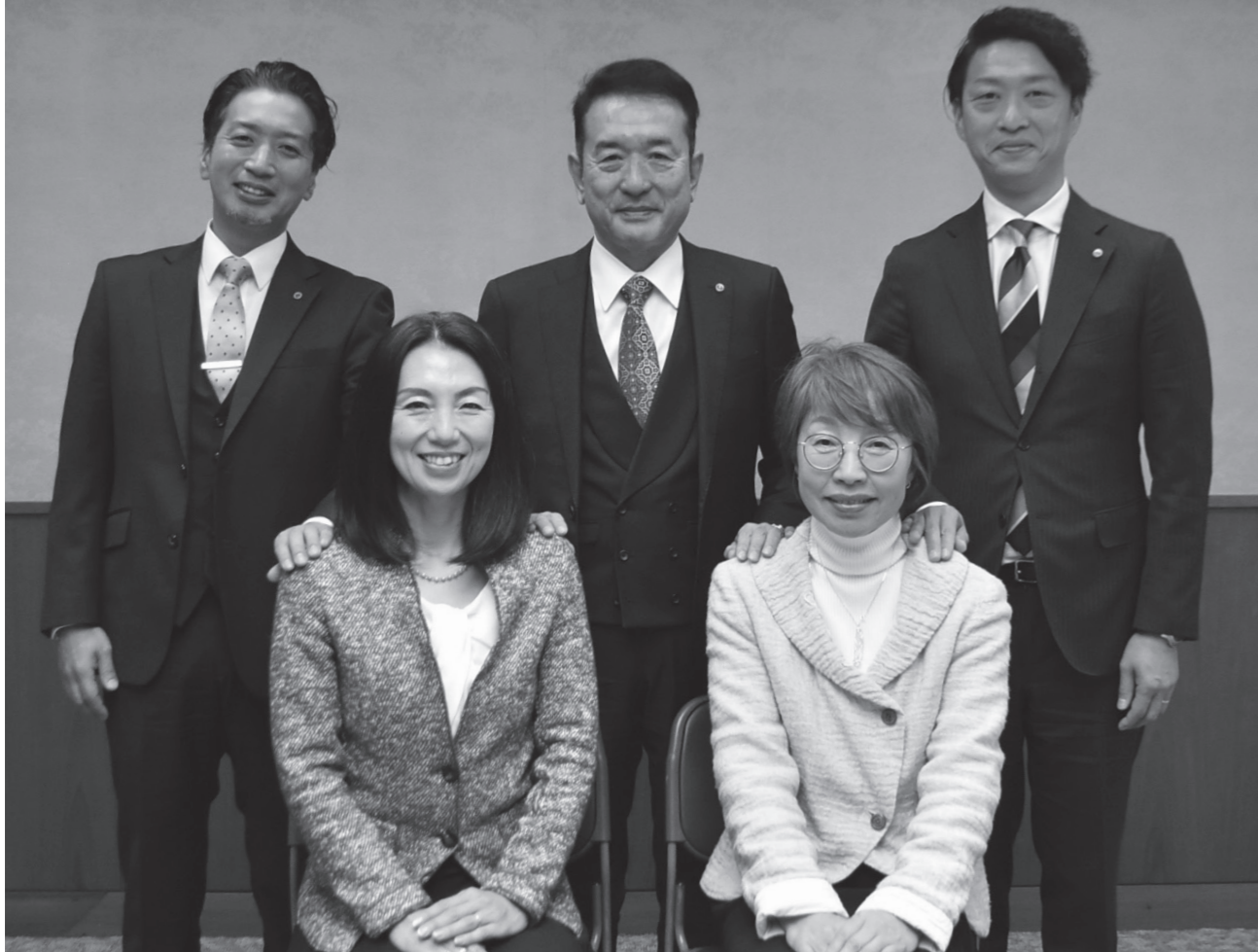


# 商工会議所・青年部・女性会が力を合わせ 半田を盛り上げよう!



## 現状 商売繁盛を願って事業に取り組む

**小柳** 昨年11月24日の当所創立130周年記念式典は盛況のうちに終了いたしました。式典明けに出席の県内商工会議所会頭の皆様より、「良い式典でしたね」などの声をいただき有り難いことと思っています。何よりも青年部・女性会の皆さんの大きな協力があったからこそ出来た企画だったと思っています。感謝を申し上げるばかりです。

本企画は、今年度と次年度の青年部・女性会の代表の方々にお集まりいただきました。それぞれの歴史、背景は大きく異なりますが、創立130周年という商工会議所の節目の年にご縁をいただく仲間として、会頭から青年部・女性会に対する想い等をお話しいただきたいと思っています。

**松石** まずは130周年記念式典へのご協力、ありがとうございます。正副会頭と職員主体で行うのではなく、今回は青年部・女性会と一緒にという気持ちが私の中に強くあり、それに応えていただき立派な式典が実現できました。心からお礼を申し上げます。

段取りも良く、全ての流れがスムーズで、青年部の皆さんに寒い中、駐車場の案内をしていただき、会場内に入ってきた瞬間に女性会の皆さんが受付で迎えてくださり、そのような温かい雰囲気、いらっしゃった方たちに伝わったという気がしています。祝賀会にも沢山の方に残っていただけたというのは、参加者の皆さんが楽しく過ごされた結果かなと感じました。青年部・女性会の皆さんのお陰だなと思っています。



**松石 幸之氏**  
(半田商工会議所会頭  
株)マツイン楽器店)

まずは私の青年部との関わりからお話しします。半田商工会議所創立99周年まで、青年部は「商業青年部」として活動していました。私の前の会長である東浦優至さん((株)ひがしうら)は創立100周年の時に「商工会議所青年部」に改編し、商工会議所の正式な組織とするために商工会議所定款に記載してもらい、青年部会員を100名にする、と積極的に動きました。その時に彼は「数字が全てで、数字をきちんと積み上げていかなければならない」と、絶対に青年部会員を100名にするという強い想いの中で、114名にしました。「100名を超えたので次の会長をやれ」と言われ、私は35・36代目の会長のお役目をいただきました。

私が会長をしていた時に「突然サンタクロース」事業があり、応募してくださった家庭にサンタクロース姿で伺うのですが、会頭や副会頭、市長に「サンタクロースやってくれますか」と緊張しながらお願いに行っていました。会頭とはそのような雲の上のような方だと思っていたので、まさか自分がその立場になるとは、その当時は勿論、直前まで予想すらしていませんでした。会頭職を受けたのは、今までに青年部出身の会頭は半田にいない、これまでの経験を活かし皆さんに近いところの会頭になりたい、一緒にワイワイ酒が飲める会頭になりたい、というようなところがあったのも大きな理由です。

私は青年部の5つの指針が腹に落ちてずっとそれに沿った活動をしてきて、仕事、生き方のスタンスに繋がってきています。今の自分を作ってきたのは商工会議所青年部だと思っています。

### 商工会議所青年部指針

- われわれ青年部は
- 一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
  - 一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
  - 一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫 勇気と情熱を傾けよう
  - 一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって歩を進めよう
  - 一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と 信じ 力を合わせ 国の礎となろう

**鈴木** 僕は青年部に入会して9年目になりますが、先輩方の頑張りのお陰で親会にも認めていただき、今回も声を掛けていただけたことを光栄に思っています。式典で会頭の隣に座らせていただくなど、昔はあり得ないことでしょう。今回も「はい、喜んで」とお手伝いをさせていただきました。組織的にも親があつて子があると考えていますので、「NO」という判断はありませんでしたし、一緒に事業をやらせてもらったことを嬉しく思っています。



**鈴木 靖隆氏**  
(令和5年度半田商工会議所  
青年部会長  
有)鈴木製作所)

この1年、商工会議所青年部はまちの経済に関わる事業をやっていかないとけない、イコール先ず自分達が儲からないとけない、教養を積み、商売繁盛を願って会員が儲かって欲しいという想いで事業を組んできました。かと言って土壌がないと商売が出来ないので、子ども育成事業として市民の方に喜んでいただきたいと「半田YEGテーマパーク」を企画し、町おこしと言うかまちを元気にしたいと、僕らが商売する土壌が衰退しないようにという想いでやってきました。

**松石** 女性会に関しては、私が会頭に就任する前年、女性会を商工会議所定款に記載しますという議題があり、実は異見しました。理由は今男女共同参画とか男女平等、ジェンダーレスと言われている中で、女性が女性のみを対象として組織するのは、あえて女性の方から男女平等社会を拒否しているようなイメージを抱いたからです。そのような視点から、青年部をもう少し拡大解釈して一緒になっても良いのではと感じていました。しかし色々話を聞き、女性経営者の皆さんが女性目線で活動する姿を見てすごく良いなあと感じ、考えを変え女性会として進めていただきたいという結論になりました。

この1年、女性会の活動を見てると、女性会が出来て本当に良かったなあと。青年部、商工会議所とは異なる目線で女性経営者としての視点が活かせられ、更に活動が活発になってきたように感じています。商工会議所が学ばせていただく部分が沢山出てきたと思っています。



**竹内 華奈子氏**  
(令和5年度半田商工会議所  
女性会会長  
スタジオ・ヨガの華株)

私は女性会発足10周年の時に入会し、当初は戸惑いがあって辞めた方が良かったかなと思った時期もありましたが、可愛がっていただいたので、なんとか続けてくることができました。自事も細心ですが経営する立場にいて、『こころって商工会議所だよ』と、女性会活動に対し常日頃から疑問を抱いていたんです。ボランティア活動も良いと思いますが、商工会議所でなくても出来る女性会活動ではないかと

思っていました。会長の役割をいただいた時に、コロナ禍の3年目だったのですが、『変える時』だと思ったんです。時代背景、社会背景の中で女性進出が叫ばれていますが、男性は男性の能力、女性は女性の能力があるので、そもそもの能力を活かしながら、それを融合させれば良いのではと常に思っていたんです。社会でも家庭の中でもそうだと思うので、横の繋がりを大事にしなが、会議所でみんながそれぞれの能力を発揮すればいいんじゃないかと今も感じています。

女性会会員の方達はつついバックが会議所ということをお忘れなんです。私たちは会議所というバックグラウンドの中で何をしたら一番いいのかと考えましようねと言いながら、会長職に就いてもうすぐ2年経ちます。色々な人からヒントをいただき出てきたワード『シナジー(複数のものがお互いに作用し合い、効果や機能を高めること)』を女性会のスローガンにしてみました。その結果が今回の130周年だったかなと思います。私たちもお役目をいただいたことはありがたいことです。女性会に力が付いてきたという判断からだと思いますが、会員一同すごくいい経験をさせていただいて、感謝しています。

**小柳** ここ3年程、コロナ禍の中で活動の制限もあったと思いますが、会員の皆さんの苦しみや悩み等を感じたところはありませんか?

**鈴木** ありますね。以前は飲み会がしたいと入会してきた人、いろんな話を聞きたいという人が半々くらいで、「飲み会がない

のに会費を払わないといけないのか」という声は結構聞いていました。でもつまらないから辞めていったり、会社が無くなった会員はいなかったですね。補助金関係を事務局担当者が上手く情報を流し、小売店、飲食店はみんなですべて、あそこは大変そうだから利用しようと支え合ってきました。青年部会員だけ守ろうというのはおかしいですが、まずは会員を最初に守ろうといった一体感は生まれ、結束は強くなりました。

**森下** 飲食店などは青年部に助けられたと言う会員も多いですね。入会募集の活動はしていない今でも大体年間10人くらいの新入会員がいます。みんなが楽しくなってきた、誘ってきけるいいサイクルになったのでしょうか。

**杉浦** コロナ禍で女性会の会員は増えたんですね。一人で経営者になっている方がほぼほぼで、多分このままじゃいけない、友人が面白そうなことをやっている、ちょっと入ってみようかと入会した方が殆どだと思います。入ってきたら自分に合わない、辞めようと思った中でも、会長にあれよあれよと引っ張られた感じで(笑)「面白いじゃない」という経過で今の会員が集ったと思います。

**松石** もっと情報が欲しいとか、もっと関わりを持ちたいとかそういう想いがあったかもしれませんね。平常だとその危機感もなく、「まあ自分でやっていけばいいわ」みたいな感じですが、コロナ禍が産んだ副産物みたいなところかなという気もします。

**鈴木** 反面、アフターコロナになったら一気に事業なども増えて、体が悲鳴を上げ、飲み会開催のリバウンドが始まりました。Face to Faceが大事と会議後の飲み会、各地から来る会員の接待をしましょうと飲み会が増えています。青年部は若いからといって体も壊れますね(笑)。

### 課題 会員増強により会の活性化を

**小柳** 一昨年の女性会サミットに参加させていただいた時の資料によると、全体的に会員の平均年齢が上がり会員数が減少傾向のようですね。組織が硬直してしまうと出来なくなってしまうこともあるかと思いますが、半田はここ数年会員数が伸び50名を超え、世代の幅も広がり、若い世代も入会しています。良い状態にあるのかなと実感しています。

**竹内** サミットは半田がちょうど主管でした。今までの女性会サミットは担当地域周辺の観光の紹介のようなことが主だったのですが、そこを半田は変えていこうと、今の女性会について考えようということ最大のテーマにしました。そこで答えは出なくていいけれど、何かを得る場がそれまでなかったのが、新たにその機会を作りました。愛知県の女性会会議に出て思うのですが、若い方が入会してこないのが危機感を感じていらっしゃるね。

青年部は多分経営者の方が多くいますが、女性会は会議所会員の奥様で、例えばご主人が議員をやっているから私たちも何かお手伝いをしましょうという方、ご自身がオーナーで



サロンのにやられている方、それから私みたいに自分でビジネスを起こしている方と大きく3タイプに分かれています。それぞれの形、年齢差があるので難しいですが、若い世代の方にお役目をシフトすることで会が上手く回っていくのではないかしらと思う時もあります。当女性会としては80名くらいまでメンバーを増やしたいですね。少し大きな規模で商売をやっている方たちが増えようと、もっと活気が出るのではないかなと思っています。これからの社会に合った経済団体にしていくために、色々なことを考えながら、徐々に課題に取り組んでいくことが必要と感じています。

**松石** 何をしていくのが明確になっていないと、仲間との交流とか、サロンのような会になってしまうでしょう。「これをやっていく」という使命と確固たる目的が、それぞれの会長の中にないとぶれていってしまう気がしますが、お二人ともそれをもち、形にしてきたからこそ、活動も盛んになって来ているのではないかなと思います。青年部は自分達の経営、商売の繁栄を目指す会であり、セールをやるから来てくれとかPRチラシを配るのを積極的にやれといつも言っていました、かつてはそれを嫌った会員もいました。私はそういう使命や目的をはっきり出していった方がいいような気がします。

**杉浦** 以前は女性会も商いを前面に出すことはあまり良くないという意識だったようです。私が入会した時にチラシを配ろうとしたら「それは？」というようなこともありました。委員長になった時に自分の委員会は会が終わってから自分の仕事のPRタイムを設けました。それを続けていたら何となく言い出しにくかった人もPR出来るようになって、一人オーナーの方たちは活動しやすくなったと思います。私自身、横の繋がりが出来ればと思って入会し、自分の商いがあっての女性会活動なので、その部分は大切にしたいですね。

**松石** 何かあった時、誰に頼もうかとなったらそれぞれの会員に頼みますよね。まずそういう仲間であるべきであって、我々は地産地消で地域経済を活性化させるんだと言っているのに、仲間を無視して他所に買いに行くのはいけないでしょう。そのようなところも含めて考えていかなければという気がします。

**森下** その当たり前が少しずつズレてきているんですね。スマホで調べればスツとものが買える時代になり、コロナ禍でデジタル化が進んでしまっています。しかし、バイローカルの取り組みをしている会議所もあることを全国会長研修会でお聞きしました。『面着』というヨタの社内用語があるように、アナログに立ち返るのではとも感じています。

**鈴木** 世の中は常に変化していますが、女性会は経営者の奥さんがお手伝いというイメージから商いを考える会のようにガラッと変わったと思っています。組織が変わる時はカリスマの存在が大きく、一人のカリスマが変えていくと感じています。来年度、青年部もカリスマが誕生します。

**松石** カリスマが誕生することも大事ですが、カリスマは一人の力ではなくて、周りにどういう仲間がいるかがすごく大きいと思います。これだけの規模の組織になると、一人がどんなに旗を振ってもそう変わらないので、そういう仲間を作っていくことがものすごく必要と思っています。今回の周年事業が大成功だったのも青年部・女性会に助けをいただけたからだと思っています。会長になる人はとても大変だと思いますが、どれだけ仲間を作って仲間を巻き込んでいくかということも大事かなと思っています。

**森下** 以前、半田商工会議所青年部歴代会長の東浦優至さんが「人は人で磨かれる」と教えてくださいました。それをつい先日の東海ブロック大会の挨拶でも、好きな言葉として言われた方がいました。それって半田の先輩から聞いている言葉なので、そういう素晴らしい言葉を後輩たちに伝えてくださった先輩たちがいる青年部と言うのは誇らしくもあり、嬉しく思いました。半田には偉大な先輩が多いとつくづく感じています。でもその看板が逆に重い時もあります(笑)。

**松石** 若かったのがその当時必死でやっていたことが、結果的に今の後輩から見ると偉大と見えるかもしれないですね。みんな一緒だと思います。今必死でやっていたら20年後、30年後に皆さんも後輩からそう思われる形になってくのではないのでしょうか。

### 想い 横の繋がりが強化のための対策を！

**小柳** 青年部は私が商工会議所専務理事に就いた頃から、行政にものが言える青年部になっていこうという思いを持っていらっしゃいます。一気にそのステージに上がるのは難しいと思いますが、商工会議所を通じてという意識を持ち始めていただけたかなと感じています。とかく青年部と行政は産業まつり、山車まつり等のイベント部分で関わりがありますが、まちづくり、地域づくりなどの点ではいかがでしょうか。

**森下** 他の地域を見た時に観光協会とか経済界と上手に商売を絡めた発信が出来ているのを羨ましいと思っています。例えば岡崎が郵便局と一緒に冊子を作ったり、犬山の観光協会はお土産コーナーで青年部の事業所をPRしたりとか。そういった切り口で商工会議所、青年部を発信していけるとよりいいのかなと思っています。ただ、小売業ではない人



森下達夫氏  
(令和6年度半田商工会議所  
青年部会長予定者  
南はなふく)

がそこでの繋がりは難しいので、何か工夫できると色んな多様化するニーズにも対応でき、会員も喜んでくれるんじゃないかなと考えています。せっかくなのでもっと何か違う角度からもアプローチできるといいなと思います。

**小柳** 女性会は子ども支援などの取り組みを通じて地域との繋がりが、福祉分野との繋がりが徐々に出来てきているかと思いますが、その点はいかがですか。

**竹内** 子ども支援は初期からやってきました。福祉は大事ですが、それは私たちの役目ではないと私は思う方なんです。壮大ですが、行政と商工会議所、教育現場、もっと言えば中学生は今からいろんなことを考えていく多感な時期なので、キャリア教育という分野も商工会議所の役割だと思っています。私事ですが、次女が中1で長女との年齢差が12年あり、次女を通じてPTAにも関わることになったのですが、学校ってこの12年の間に変わったんだと実感しました。何が一番大事って考えた時に、福祉は私たちが介入できないから行政にやっていただきたいし、学校の中の圧倒的多数の子はこれからの半田市を背負っていく子だから、こっちの子に目を向けなきゃと思うタイプです。商工会議所はすごくいいお手本がいっぱいあるので、そういう子どもたちの可能性を引き出してあげるような教育現場ともしっかり結びつけたいんじゃないかなと考えています。そこに女性会も入っていけると、楽しい半田にもなるんじゃないかなと。子どもたちも楽しく学校に行けるし、不登校のお子さんも引っ張り出せば、そういうことがやれると理想だと思っています。役割分担って多分あると思っています。

**松石** 産官学連携はこれからますます必要になってきますね。私の持論ですが、子を一生懸命優秀に育てよう学習塾に通わせ、勉強させ、良い高校、良い大学に入れる。そうすると小さな会社は継がず、良い会社に行ってみたく。結果的に東京などで就職してしまい、地元に戻ってこないのでは危惧しています。地元で働くということの魅力をもっと発信していかなければと思っています。

先日当所工業部会が「オープンファクトリー」を開催し、私も覗いてみたのですが、ロケット部品を作っているようなすごい工場や、素晴らしい企業が数多くあるのに、地元の我々も、子も知りません。発信し、子自身も、親たちも地元でこのような良い企業があることを知っていただきたい。地元で働くということは親元の近くにいるということなので、家族の大事さも実感できるということでしょうね。

**小柳** 青年部は今年、子ども育成事業『はんだ働楽(はたらく)子どもマルシェ』を開催されましたが。

**鈴木** 僕は後継者と言いますか、このまちを愛して商工業を守ってくれるだろう子どもたちに、タネを植えるような作業から始めていこうと思っています。面白いじゃないかと工科大学に行くと、半田の企業に就職するという子を一人でも育てられないかというのが発想でした。リアルな現金を使って働くことの大切さや楽しさ、大変さを実感していただけたかと思っています。継続事業になると良いですね。

**竹内** お金を稼いで循環させるということ、子どものうちから学ぶ教育が今は必要ではないでしょうか。そういうことを子ども時代の発想力の中で養っていけると面白いかなとも感じています。

**松石** 今まで「儲ける」という言葉が、あまり良いことのように感じられない学校教育や、地域の雰囲気があったと感じています。しかし適正な利益をきちんと得ることによって、次の投資に繋がり、雇用に繋がっていきます。例えば公的機関の入札制度に対して私自身抵抗があるのですが、儲けることを社会全体が認めてくれないような気がしています。そのような金融経済教育のようなことも、もっと実践していくべきでしょうね。

**小柳** 現在、青年部・女性会はこれから先々地域で活きた人材になっていただくために、子どもたちのステージのところから関わりを持っていただいています。商工会議所は行政等と直接向き合えるところで、それを上手く力として持って行けたらいいかなと思っていますので、各事業にぜひそれを一つの要素として取り組んでいって欲しいなあと心から思っています。

## 要望 会員の商売発信の機会を！

**松石** 商工会議所に対してこうして欲しいとか、こういうことをしてもらえると嬉しいということはありますか？



杉浦勝代氏  
(令和6年度半田商工会議所  
女性会会長予定者  
(南一誠堂))

杉浦 観光協会と半田市観光課の管轄がどこまでか、それすら解っていませんが、先ほど森下さんが言われたように他の市町は横の繋がりがすごくあるのに、半田は本当に無いと思っています。私はこんなに商工会議所に来ているのに、知らない間に立派な観光案内の冊子が出来ていて、声を掛けていただけないんだと感じています。観光課が出しているのか、観光協会が出しているのか、はたまた半田市の他部署から発刊しているのかも分からず、未だにどこに言えば掲載していただけるのかと、ずっと前から思っていました。横の繋がりがあれば活動しやすいし、色々な情報交換にも繋がっていくと思っています。どうしたら繋がっていくんでしょうね。

**小柳** 観光協会は会員組織で、来街者を増やすための様々な事業活動を行っています。一方で地元向けにはなかなか発信できていない部分もあり、観光協会がどのような取り組みをしているかを理解している方は多くありません。商工会議所はそこを繋いでいき、市内事業者の皆さんへお伝えする機会を提案していかなければいけません。女性会・青年部など様々なステークホルダーが情報を見聞きし、連携の機会を掴んでいただければと思います。同じように知多半島観光圏、中部国際空港、愛知県国際展示場なども繋がっていくことでさらにチャンスが生まれてくるでしょうね。



**杉浦** 現実には横の繋がりがどこか、中心市街地の取り組みも同じ半田市内のことなのに、違う地域の話なのだと、商いをやっている私たちでも思ってしまう。ましてや、そこに住んでない人は尚更でしょう。横の繋がりがあっても、ちょっとした情報が流れてきて、話し聞いてみようとなってくるでしょうし、ちょっとした情報が繋がっていくとすごいことになっていきます。口コミがすごいというのはそういうことだと思のですが、その情報網を1本、2本と増やしていくことができたと思っています。

**竹内** 例えばフェスタのようなもので、女性会会員の商売の発信をしていただくような機会を会議所で担っていただけたらと以前から思っていました。そうやって青年部と女性会は親会がサポートしてくれてるんですよということを形にすると、私たちの商売にも反映できるし、会議所の一般会員の人たちもワーと目を向けていただけるのかと思っています。何かあって会議所の会員になっていくので、それって当たり前じゃないでしょうか。みんなそうで、そこを綺麗に見せてあげる場を親会が作っていただけると私たちも仕事にやりがいが出てくると思います。ひいては半田市のためじゃないですか。そういう気持ちになれるような何かを親会が担ってくると嬉しいですね。

女性会の会員からも最初に「会議所って何やる所?」って聞かれます。それは「何か得するの?」って話じゃないでしょうか。「商売する時に入るともれなく特典が付いているよ」ってことを外から見やすくする必要のあるのではないのでしょうか。それに応えるためにも、私たちも循環を目指すような何かをしてお返ししないといけないと思います。

**鈴木** トップと近い関係にあるために青年部は今非常にわがままを聞いていただいているのですが、このままの確固たる体制を築いていけたらと思っています。どんな方法がいいのかは浮かびませんが、例えば青年部会長は充て職で親会のこの役目に就くなどになると、今後も親会と青年部の関係性が継続できてありがたいかなと思います。僕らはユースチームであり、議員になるための登竜門だと自負しています。会員さんに「この企業は女性会・青年部に入っています」というような情報を流していただけたらと思います。

そして会員さんの後継者は必ず青年部に入る、女性は必ず女性会に入るというようなお願いをしていただきたいと思っています。全ての方が入るとは思っていませんが、まずは青年部・女性会を知っていただきたいと思っています。

**竹内** 女性はどっちも入れるじゃないですか。青年部はすごく活動的というイメージがあって、女性も男性の中に混ざるのでジェンダーレスというか、そこに性が現れるのではないのでしょうか。そういうプラスαがある訳で、女性って家庭があるからどちらに入るかは天秤をかけると思うんですよ。特に若い子たちは、30代、40代は本来だと家庭や子育てが忙しいのですが、それがクリア出来る方は青年部に入られると思います。その辺りの線引きは難しいですね。

**松石** 私たちは青年部や女性会の力を借りながら会員を増やしていかなければ、多分、減少方向になると思います。先ほど竹内会長が言われたように、「商工会議所とは何か?メリットはあるのか?」という問いに対して、明確な答えを持つことが重要です。現状は、上手に商工会議所を活用していただける会員の皆さんはメリットを得ることができますが、お付き合いのみで入会した会員の皆さんは、会費を払い名前がそこに載っているだけです。青年部・女性会という魅力ある会があり、その力も借りながら自分の商売がより良くなるという姿を見せられるような形に、私たち商工会議所としても持っていくべきと考えています。

私が心配しているのは、130周年を機に会員が減ってしまうのではないかということです。コロナ禍の時は会員が増える傾向でした。補助金などの制度を活用したい、商工会議所会員としてのサービスを利用したい、などの理由からです。ピوندコロナとなり、状況が変化中、会員としての意義も見直される傾向があります。そのように考えると私たちは商工会議所の魅力をもっと発信していかなければ会員減少は避けられなくなってくると思います。青年部・女性会の力をお借りしたいし、半田商工会議所は共に行動できる環境があると思っています。共に発信していきたいでしょう。

**鈴木** 是非お願いしたいと思います。



聞き手/小柳 厚  
(半田商工会議所専務理事)

**小柳** 青年部・女性会会員としての価値が高まるよう商工会議所としても更に考えてまいります。組織基盤の要は会員であり、会員数の維持・進展が組織基盤をより強固なものとし、まず各々の経営を大切に、かつ青年部・女性会の活動を充実させることと相まって、社会からも憧れられる・尊敬されるよう成長していくと良いと思います。それは青年部・女性会、ひいては商工会議所が大きなブランド力を持つことになります。良い相乗効果を作りたいと思っています。

令和6年度にそれぞれ会長を務めるお二人に现阶段での意気込みを伺います。

**森下** 大きな節目である130周年を機に自分達がますます盛り上がり活性化していきたいと思っています。今まで積み重ねてみえた諸先輩方の歴史や背景を活かして、どの会員事業所も自分達の社業PRや発展に結びつくような事業を1年間を通して企画していきたいと考えています。経済人だから

こそ、そういう事業をやっていききたいと思います。当青年部の発足60周年の式典・祝賀会は来年1月、本年9月には記念事業も計画しています。

**松石** 令和7年度に設立20周年を迎える女性会はますます発展していただきたいと思っています。女性が経営者として活躍し、男女関係なく、頑張る人に視点を合わせれば、女性が社会で活躍する場面も更に多くなっていくのではないのでしょうか。商工会議所の議員構成も女性が少なく、女性会から議員、常議員になっていただける方が増えていくような商工会議所になりたいと思っています。

**杉浦** 今いる会員の結束を固めて、楽しく元気にさらに面白い会にしていきたいと思っています。「あの人誰だっけ?」というようなことのないように、みんなが名前をちゃんと伝える。人数が増えれば増えるだけ助け合う機会が多くなり、自分も助けてもらえる。そういう気持ちでやっていきたいと思っています。

私自身今まで自分の力ではなく人に助けられて来ている部分大きいと感じています。昨年、地域でのイベント『北二ツ坂カーニバル』に女性会の会員もブースを持とうと自然に集まってきてくださった。あの時、女性会に入っていて良かったなとすごく思いました。自分からやりたい、来たい、やってみたいという会員が大半いる中で、手を繋いで離さずに、いただいたお役目を真剣に取り組みたいと思っています。

**竹内** まだまだこれからの女性会とは思いますが、20周年もあり、できることをしようねと次の会長もやっていくと思うのですが、親会のお力、懐も借りつつ、且つ青年部のお力も借りつつ20周年は皆さん喜んでいただけるようなお祝いしたいなと思っています。

**小柳** 青年部は令和6年度、日本商工会議所青年部に委員長として出向する会員もみえますが、青年部単会における効果、期待はいかがでしょうか。

**森下** 本商工会議所青年部は持っている情報もたくさんあると思いますが、現実には組織の末端までなかなか届いていません。県連や東海ブロックも同じですが、日本の委員長を受けることでさらに縁が広がっていくと思います。せっかくの縁です。半田を全国にPRしながら、色々な情報を単会内に伝えていただきたいと思っています。

**鈴木** 市内で大きい箱(催し物会場)は、なんとかならないですか。200人以上が入るようなホールがあればと思います。今後、愛知県連の主管や、ブロック大会の開催も予想されるため熱望しています。

**松石** ホテルもビジネスタイプであれば成り立つようですが、宴会場を持つような大きなホテルは半田では成り立たないと聞いています。私たちがそのような宴会場を持つホテルを誘致できるくらいの経済活動をしなければいけませんね。是非、商工会議所・青年部・女性会の力を合わせ、半田を盛り上げるための経済活動をしていきましょう。